

新庁舎『つなぐ、守の舎』が着工

図庁舎整備推進室 ☎(584)5926 📠(582)0539

2. 災害に強く、市民の安全・安心を支える庁舎

- 災害時に現庁舎と防災センターで分散していた防災機能を一体化し集約します。
- CLT+鉄骨ハイブリット構造により、建築基準法に定める耐震強度の1.5倍のさらに15%増の耐震性能(1.725倍)を持つ庁舎とします。
- 空調熱源は電気・都市ガス・LPGの3種を組み合わせ、太陽光発電とコージェネレーションシステムによる発電を行い、災害時にもしっかりと機能維持できる強靱性を持ち合わせた庁舎とします。また、発電した電力は、市民の皆さまの携帯電話の充電にも利用できます。
- 新庁舎は災害発生時に市民の安全・安心を支える行政機能を維持するとともに、中枢拠点としての役割を果たします。

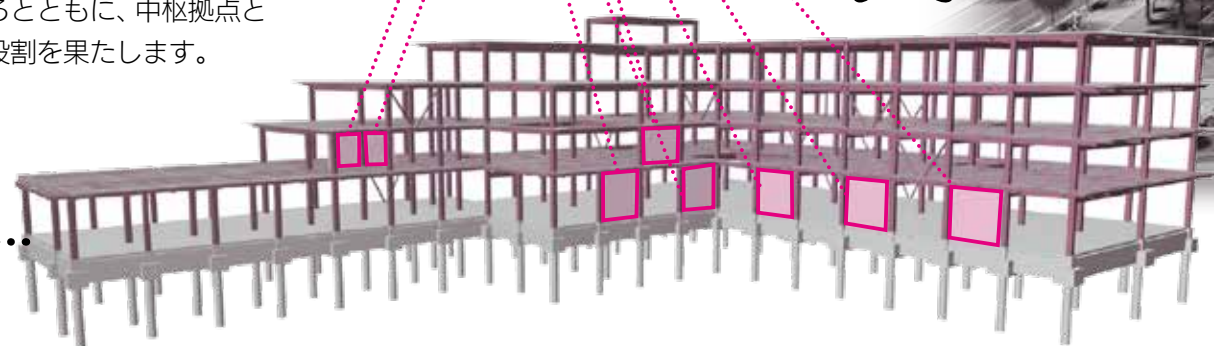


CLT耐震壁

地震に強い
建物になるよ！



上部構造
↑
基礎構造



1月14日に
本体工事の着工を迎えた
守山市新庁舎『つなぐ、守の舎』。
昨年末に完了した実施設計をもとに、
新しい庁舎について
解説するよ！



新庁舎の『つなぐ、守の舎』って？

<つなぐ>

- ①守山の人が「つながる」庁舎
- ②次世代を育み、未来に「つながる」庁舎

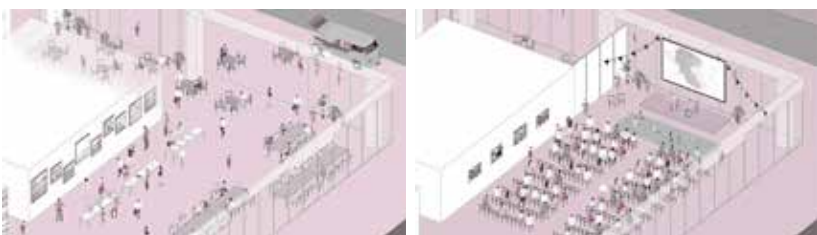
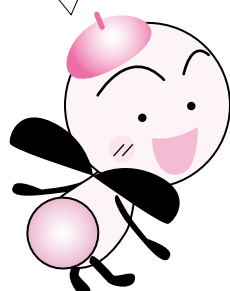
<守の舎>

- ①災害時の中枢拠点として市民の「安全を守り抜く」庁舎
- ②平常時には、すべての世代の皆さまに「安心を提供する」庁舎

3. 市民に開かれた庁舎

- 多目的ホールやカフェを設置し、窓口サービスのために庁舎を利用だけでなく、多様な人との交流のために利用できる庁舎を目指します。また、多目的ホールなどに隣接した大庇(街角広場)を設け、一体的に利用できるようにします。
- 1階・多目的ホールや2階・防災対策室、市議会の議場、委員会室などは、市民の皆さまへ開放します。

多目的ホールは
講演会などの催しのほか、
自習、お仕事など
スペースを自由に
使えるよ！



1階 多目的ホールの平日開庁時の利用イメージ(左)、土・日曜日・祝日の利用イメージ(右)



カフェのイメージ



街道広場のイメージ

1. “ワンストップ”で、誰もが利用しやすい庁舎

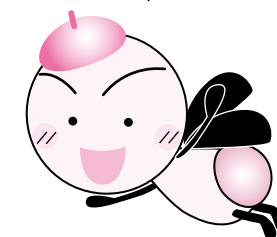
- すこやかセンターと現庁舎で分散していた福祉部門を集約化します。
- 市民の皆さまの利用の多い窓口を1・2階に集約化し、ワンストップでサービスを提供します。

1・2階に配置する主な窓口機能

- ・1階 市民課、国保年金課、税務課、納税課、長寿政策課、障害福祉課、介護福祉課、地域包括支援センター、生活支援相談課 など
- ・2階 すこやか生活課、こども家庭相談課、保育幼稚園課、学校教育課、社会教育・文化振興課 など

- 親身に寄り添った相談支援ができる、プライバシーに配慮した相談室を20室程度設けます。
- ユニバーサルデザインを積極的に採用し、誰もが使いやすい庁舎を目指します。

すこやかセンターの
福祉系窓口も
一体化するよ！



現庁舎のこと、知っていますか？

現在の守山市庁舎は、昭和40年に当時の守山町の「守山総合ビル」として当時の金額で総工事費1億7,000万円で建設され、57年間、本市の発展を支える中枢拠点としての役割を担ってきました。

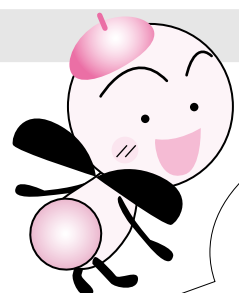
当時この敷地には、旧吉身小学校の校舎があり、それを活用し、合併後の新生守山町の役場となり、その後、合併10周年を記念し、校庭であった現在地に現庁舎が建設され、今日に至っています。



現庁舎

「守山総合ビル」という名称は、町長部局だけでなく、教育委員会や農業委員会など、さまざまな行政機能を集約した総合庁舎とし、新生守山町のまちづくりの中心となるビルとするとの考えでした。

また、現庁舎の建物の外壁の若葉色のタイルには、青年が未来に向かって大きく成長していく希望の色として、新生守山町の大きな飛躍・発展への思いを込めて、この色にされたと伝わっています。このタイルは新庁舎にも一部再利用し、この思いを継承していきます。



若葉色は「青年が未来に向かって大きく成長していく希望の色！」

<建築概要>

敷地面積	約17,400㎡
延床面積	約12,990㎡(庇除く)
構造・階数	鉄骨造4階建て(耐震壁にCLTを採用)
駐車台数	423台

<DB(デザインビルド)事業の発注概要>

発注方式	基本設計先行型DB方式
実施設計・施工	株式会社 竹中工務店 京都支店
契約額	6,105,000,000円(税込)
契約工期	令和3年3月25日～令和6年7月19日
事業内容	実施設計、本体工事、周辺外構工事

<基本設計者>

限・安井設計共同企業体
株式会社 隈研吾建築都市設計事務所
株式会社 安井建築設計事務所

<事業費>

(当初想定事業費)	
ハード	約66億円
ソフト	約13億円
合計	約79億円

事業費については、DB事業の落札により建設費約3億円を縮減しました。また、市町村役場機能緊急保全事業債などの起債事業を活用するなか約10億円の交付税措置を予定しているほか、社会資本整備総合交付金や、県びわこ材補助金の活用などにより約3億円の歳入を予定しています。市の財政負担を軽減できるよう、今後も引き続き調整を行っていきます。

<建て替えまでの経緯>

平成26年3月	「庁舎あり方検討委員会」により提言書を取りまとめ
平成29年9月	市議会より「早期の新庁舎整備について」の提言
11月	新庁舎の整備に係る基本計画について検討を開始
平成30年7月～	市議会による公共施設調査特別委員会および新庁舎整備検討ワーキングチームでの議論(計12回)
平成31年2月	基本計画に係るパブリックコメントの実施
平成31年3月	「守山市新庁舎整備基本計画」の策定
令和元年8月	公募型プロポーザルにより基本設計者の決定、基本設計の着手
令和2年5月	基本設計に係るパブリックコメントの実施
6月	新庁舎整備に係る基本設計の完了
令和3年3月	DB事業者の決定、実施設計の着手
9月	準備工事(先行解体など)の着工
12月	新庁舎整備に係る実施設計の完了
令和4年1月	新庁舎本体工事の着工

今後のスケジュール	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
設計	完了			
新庁舎工事		● 暫定供用開始	● 本供用開始	
解体・外構				●

4. 機能的でコンパクトな庁舎

- 徹底したICTの活用により、「待たず」、「書かず」、またできるだけ「行かず」にサービスを提供できる効率的かつ効果的な行政運営を行います。
- エレベーターのボタンを非接触化とするなど感染症への対策を行います。
- 利用するすべての人が快適で健康的に利用することができる新庁舎とし、滋賀県内初の「CASBEEウェルネスオフィス」のSランクを達成します。

DX活用で手続きが簡単になって、待ち時間が短くなるよ！



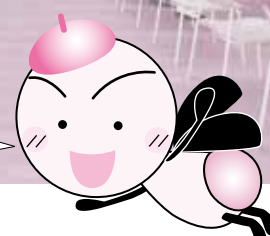
インフォメーションウォール
子育てやさまざまな市の情報を掲示

効率的な構造計画により柱のない中央待合空間を実現

執務エリア

知的生産性の向上に資するウェルネスオフィス

広くゆったりとした待合スペースになるよ！



▲1階 「なかの街道」

5. 環境と未来の世代にやさしい庁舎

- 自然エネルギーの積極的活用と省CO₂技術の導入により、一次エネルギー消費量を50%以上削減する「ZEBready」を達成します。
- 県内産木材である「びわ湖材」を使用し、地産地消や省CO₂に貢献します。
- 周辺環境に溶け込む圧迫感のない木目調の温かい庁舎となります。

太陽光発電設備は40kW！
建物はZEBready



1. 自然通風・自然換気、外気空調の採用による、換気・空調用電力の低減
2. ペアガラスやLow-Eガラスを適材適所に用いた高断熱化と換気により、温度差による熱負荷の軽減
3. 水損とコスト低減に配慮した外構のマウンドアップ
4. センサー、自動制御による照明負荷の軽減
5. 窓上の庇やブラインドによる日射遮蔽と熱負荷の軽減
6. メンテナンスに配慮した水平のバルコニー
7. 守山特有の伏流水を活かした積極的な井水利用

